令和５年度　学校評価報告書（目標設定）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取　組　の　内　容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	○学びの連続性をふまえた教育課程を編成し、個別教育計画による一人ひとりのニーズに合わせた教育を実践する。	○学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を整理し配列する。	学校目標の達成に向けて、年間指導計画の書式の移行を進め、各教科等を横断的に取り組むためのシートを作成する。	教科ごとの系統性を検証できたか。授業改善、授業力向上にむけて組織的に取組めたか。
			○コロナ禍で制限のあった様々な教育活動の改善を図る。	基本的な感染防止対策を講じながら、学習内容、形態、方法を具体的に改善する。	学習内容や形態、方法は改善したか。
		○豊かな心と健やかな体を育む教育活動を実践する。	○自分や他者を大切にして、自己肯定感を高め、認め合う授業をさらに充実させる。	「自分や他者を意識し大切にすること」を扱う授業を年間指導計画に位置付けて実施する。その際、「何ができるようになったか」児童生徒の理解にあった具体的な目標を設定する。	「自分や他者を意識し大切にすること」を扱う授業を年間指導計画に位置付けて実施したか。児童生徒にあった目標を設定し授業を実施したか。
2	児童・生徒 指導・支援	○一人ひとりのニーズを把握し、根拠に基づいた支援・指導に組織的に取組む。	○本校の児童生徒のアセスメントを活用した組織的な指導支援の仕組みの充実を図る。	本校の児童生徒のアセスメントの実施から結果の活用までの一連の流れを図示するなど視覚的に示して共通理解を図る。	本校の児童生徒のアセスメントの実施から結果の活用までの一連の流れを共通理解できたか。
		○インクルーシブ教育の推進を図る。	○交流及び共同学習の意義と目的を本校職員間で共通理解を図るとともに、相手校と共有する。	インクルーシブ教育を進める中での交流及び共同学習の意義、居住地交流の趣旨、本校の実績等を記したリーフレットを作成する。リーフレットを交流する相手校に提供し啓発する。	交流及び共同学習のリーフレットを作成したか。 また職員間で情報共有し、相手校と情報共有したか。
			○コロナ禍で実施できなかった、居住地交流を確実に実施する。	居住地交流は、直接的な交流に加えて、必要に応じてリモートで行うなど、方法を工夫して確実に実施する。	希望者に対して、居住地交流を１回以上実施できたか。
3	進路指導・支援	○自立と社会参加をめざし、一人ひとりのニーズや適性に応じた進路指導・支援を行う。	○卒業後という「未来の時間」をイメージしつつ、在学中の「今という時間」を大切することの理解を深め、自立と社会参加を見据えた進路指導と支援の充実を図る。	ゲストティーチャーや、卒業生の体験談を、児童生徒や保護者が聞く機会等を設けて、卒業後の自立と社会参加を見据えたキャリア発達につながる指導の充実を図る。	ゲストティーチャーや、卒業生の体験談を、児童生徒や保護者が聞く機会等を設けたか。 また、こうした機会を通して進路指導への関心は高まったか。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取　組　の　内　容	
				具体的な方策	評価の観点
４	地域等との協働	○共生社会の実現に向け、地域との協働による学校運営をすすめ、地域と連携した教育活動を実践する。	○PTA と学校が連携して、児童生徒が活用しやすい図書室の整備を行う。	三ツ境校舎では、各教室から、よりアクセスしやすいよう、校舎内に図書コーナーを設置する。また、PTA と連携して読書活動を実施する。	三ツ境校舎内に図書コーナーを設置したか。PTA と連携して読書活動を実施したか。
			○学校の広報活動の充実を図る。	各部署では、広報活動に取組む際、積極的な情報発信となるよう、対象者や手段についてその都度検討し、年間を通して計画的に実施する。	学校の広報活動は検討を重ね計画的に拡充したか。
		○地域における特別支援教育のセンター的機能としての取組を推進する。	○地域の小、中学校及び高等学校における特別支援教育の充実に向けた学校コンサルテーションを充実させる。	地域の小、中学校への学校コンサルテーションの方向性と具体的な内容等について検討し整理する。 高等学校（インクルーシブ教育実践推進校）への、学校コンサルテーションを開始する。	学校コンサルテーションについて検討し整理したか。 高等学校における特別支援教育の実施にむけた、学校コンサルテーションを実施したか。
５	学校管理 学校運営	○安全で安心な教育環境の整備に取組む。	○三ツ境校舎、横浜緑園分教室ともに、新しい施設設備の中で非常変災時に適切に対応できるよう体制を再構築する。	災害や事故への従前の対応策が、新しい施設設備のもと、新型コロナウイルス感染症への対応を含めて、適用できるか再検討する。	災害や事故への対応策を再検討し、必要に応じて修正できたか。
			○新しい施設設備の中で、児童生徒が安全に学習できるよう、各室の物品の管理を適切に行う。	施設設備の危険個所の確認、鍵の管理、備品の管理、共用する各室等にある物品管理等の管理体制を総合的に整備する。	施設設備の危険個所の確認、鍵の管理、備品の管理、共用する各室の物品等の管理体制を整備したか。
		○教員が子どもたちと向き合う時間を確保するために、教員の働き方改革を推進する。	○効率的な校務の運営をさらに進め、業務の見直しを図る。	三ツ境校舎と分教室が同時に参加する会議等について、リモートや書面での実施を拡充する。 令和６年度に学校目標を改定することを踏まえて、校務分掌組織を改編する。	リモートや書面での会議を拡充したか。 学校目標改定を踏まえて校務分掌組織を改編したか。
		○信頼と期待に応える学校づくりを組織的に行う。	○不祥事防止の取組を計画的に着実に実施する。	不祥事防止に関する取組の年間計画を作成し、不祥事防止会議で進行管理を行う。	不祥事防止に関する取組の年間計画を作成し、不祥事防止会議で進行管理を行ったか。
			○学校経営、運営上の課題解決のために設置するプロジェクトチームについて、横断的なチームを編制し、ゴールと期限を設けて取り組む。	三ツ境校舎における図書室の活用、医療的ケア児の通学支援と今後の水泳指導についてプロジェクトチームを編制し課題解決に向けて検討を進める。	プロジェクトチームを編制し課題解決に向けた検討を行ったか。